

立場で積極的である。スリランカは角膜の日本への提供国であった。

しかし、これらの国で胚の医学利用がどの程度の段階であり、宗教会や市民レベルがどの程度に関わっているかは分からない。

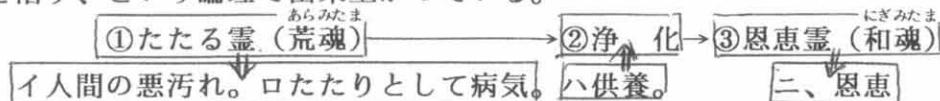
5、東南アジア仏教は「慈悲」の立場が優先している。日本仏教は、仏の命の絶対性と、その前における人間の欲望放棄の立場がつよい。

III、日本人の生の始まりに関する見方（アニミズムも含めて）

結論 1) アニミズムの靈魂觀が基本にある。これは異常・異形への恐怖をもつ。
2) ムラ社会の心性が無関心と、現実主義の両極の行動を起こさせる。

1、日本人の生命觀、特に生の初めと終わりについては靈魂觀が中心といえる。

日本の精靈信仰は ①たたる靈（荒魂）と、③恩恵靈（和魂）の両極の觀念を持ち、イ、人間の惡や汚れに、①たたる靈（荒魂）が共鳴して、口、たたりとして病氣などの不幸をもたらす。そこで人間は「荒靈」を、ハ、供養して「靈界を操作」すると、荒靈は②淨化されて、③恩恵靈・先祖・カミ（和魂）になり、二、人間界に恩恵を与えて病氣を治す、という論理で出来上がっている。



アニミズムとしての生命への「畏敬」の念は「靈」觀念に象徴される。その特徴は、A、異常、異形、惡、負い目に恐怖心をもち、荒靈が強まる。

B、だが、現実の人間の都合で排除される生命は人の世界から除外される（中絶胎児）。

江戸時代の「子がえし」「江戸末期」の中絶なども抑圧され、心の奥に隠された。

B-2その場合、人間の負い目と結び付いて、不安定な靈として祭りが必要になる。

C、所が大きな権威（上位のカミ等）からの要請だと生命への侵襲は正当化される。

たとえば、司法解剖、病理解剖、ムラや同族家族のためなら正当化される。

2、アニミズムは、生命力を「感じる」偉大なものにカミを感じる。

期待された生命は「申し子」などのように絶対化し、必要性がない子は排除する。

そして、異常・異形に恐怖とアレルギーを持つ。

3、日本でこうした問題に「理性的な論議」がされにくいのは「無関心」による。

「無関心」の理由は、イ) ムラ社会の文化が考えられる。a、身内意識という内向きの心性と、b、他人に干渉しない生きることで摩擦を避け、c、異常・新奇を排除する。d、しかし、強い権威や必要性があれば受け入れる（必要性があれば論理的整合性がなくても行動する現実主義）。こうした実例は、国内での臓器移植に嫌悪感を持つつ、国外でのそれには寄付金が集まるという行動に見られる。A I Dにも簡単に行動して「やっぱりオレの子ではない」と離婚する人がいる。

ロ) 他者への無関心は、若者の社会性の欠如と自己批判精神の欠如がかさなっている。